

# 教育課程編成・実施の方針（CP）

## 教育課程編成・実施の方針（CP）（カリキュラム・ポリシー）

本学では、卒業認定・学位授与の方針（DP）に掲げる目標を達成するために、総合共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、科目を配置する。教育内容、教育方法、教育評価については以下のように方針を定める。

### <教育内容>

1. キャリア教育科目を含めた総合共通科目は、心身ともに健康かつ文化的に豊かな人生を送るために必要な知識・技能に関わる分野の科目を配置する。
2. 専門教育科目は、総合共通科目の教育内容と連携強化を図り、基本的な内容から応用・発展的な内容まで体系的に学べるように科目を配置する。

### <教育方法>

1. 講義形式の授業とともに、学生の主体的な学びを引き出すために少人数授業、習熟度別授業、双方向的・学生参加型授業、課題解決型授業等の多様な授業形態を取り入れた教育方法を実施する。
2. 海外研修や実習等の体験的な学習活動を実施する。

### <教育評価>

1. 各授業は、シラバスによって明確化された到達目標と成績評価基準に従い、単位を付与する。
2. 学修成果は、卒業要件の各区分単位を満たすことを含め、総合的に評価する。

家政学部	生活デザイン学科	<p>生活デザイン学科では、卒業認定・学位授与の方針（DP）に掲げる目標を達成するために、総合共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、科目を配置する。</p> <p>教育内容、教育方法、教育評価については以下のように方針を定める。</p> <p>&lt;教育内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. キャリア教育科目を含めた総合共通科目を配置し、家庭科教育コース、インテリアデザインコース、ライフデザインコースの3コースで構成し、教育者・企業人として必要な人間生活とその環境に関する専門的知識と技能を体系的に学ぶことができるように科目を配置する。</li> <li>2. 専門教育科目は、学部共通科目、学科共通科目、コース科目およびゼミナール科目に区分し、コース科目を家庭科教育コース、インテリアデザインコース、ライフデザインコースの3コースで構成し、基礎的内容から応用・発展的内容まで体系的に学べるように科目を配置する。</li> <li>3. 専門的な知識と技能をより深く理解できるように演習・実験・実習の科目を適切に配置する。</li> </ol> <p>&lt;教育方法&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主体的・能動的な学修態度を育むために、学生参加型学習、グループワークなど双方向型の教育方法を実施する。</li> <li>2. 講義・演習・実習等の授業形態に応じて、アクティブ・ラーニングを取り入れ、協働性を身に付けるとともに、課題解決能力を育成する。</li> <li>3. 卒業研究（「キャリア発展ゼミナール」）は、身に付けた知識・論理的思考力・分析力を活用し、自らの選んだ研究の成果が実を結ぶようにきめ細やかな指導を実施する。</li> </ol> <p>&lt;教育評価&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各授業は、シラバスによってその内容と位置づけを明確にし、成績評価基準に基づき単位を付与する。</li> <li>2. 4年間の学修成果は、卒業要件の各区分単位を満たしたことににより認定する。</li> </ol>
	栄養学科「管理栄養士課程」	<p>栄養学科では、卒業認定・学位授与の方針（DP）に掲げる目標を達成するために、総合共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、科目を配置する。</p> <p>教育内容、教育方法、教育評価については以下のように方針を定める。</p> <p>&lt;教育内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. キャリア教育科目を含めた総合共通科目を配置し、管理栄養士として必要な食と栄養および健康・福祉に関する専門的な知識と技能を体系的に学ぶことができるように科目を配置する。</li> <li>2. 専門教育科目は、学部共通科目、専門基礎分野、専門分野に区分し、専門基礎分野を「社会・環境と健康」、「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」、「食べ物と健康」の3領域、専門分野を「基礎栄養学」、「応用栄養学」、「栄養教育論」、「臨床栄養学」、「公衆栄養学」、「給食経営管理論」、「総合演習」、「臨地実習」の8領域で構成し、基礎的内容から応用・発展的内容まで、体系的に学べるように科目を配置する。</li> <li>3. 専門的な知識と技能をより深く理解できるように演習・実験・実習の科目を適切に配置する。</li> </ol> <p>&lt;教育方法&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主体的・能動的な学修態度を育むために、学生参加型学習、グループワークなど双方向型の教育方法を実施する。</li> <li>2. 講義・演習・実習等の授業形態に応じて、アクティブ・ラーニングを取り入れ、協働性を身に付けるとともに、課題解決能力を育成する。</li> <li>3. 卒業研究（「キャリア発展ゼミナール」）は、身に付けた知識・論理的思考力・分析力を活用し、自らの選んだ研究の成果が実を結ぶようにきめ細やかな指導を実施する。</li> </ol> <p>&lt;教育評価&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各授業は、シラバスによってその内容と位置づけを明確にし、成績評価基準に基づき単位を付与する。</li> <li>2. 4年間の学修成果は、卒業要件の各区分単位を満たしたことににより認定する。</li> </ol>
人間科学部	児童・幼児教育学科	<p>児童・幼児教育学科では、卒業認定・学位授与の方針（DP）に掲げる目標を達成するために、総合共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、科目を配置する。</p> <p>教育内容、教育方法、教育評価については以下のように方針を定める。</p> <p>&lt;教育内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. キャリア教育科目を含めた総合共通科目を配置し、児童教育コースと幼児教育・保育コースの2コースで構成し、教育者・保育者として必要な子どもの教育および発達支援に関する専門的知識と技能を体系的に学ぶことができるように科目を配置する。</li> <li>2. 専門教育科目は、学部共通科目、学科共通科目、コース科目およびゼミナール科目に区分し、学科共通科目を初等教育領域、特別支援領域の2領域、コース科目を児童教育コース、幼児教育・保育コースの2コースで構成し、基礎的内容から応用・発展的内容まで、体系的に学べるように科目を配置する。</li> <li>3. 専門的な知識と技能をより深く理解できるように演習・実習の科目を適切に配置する。</li> </ol> <p>&lt;教育方法&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主体的・能動的な学修態度を育むために、学生参加型学習、グループワークなど双方向型の教育方法を実施する。</li> <li>2. 講義・演習・実習等の授業形態に応じて、アクティブ・ラーニングを取り入れ、協働性を身に付けるとともに、課題解決能力を育成する。</li> <li>3. 卒業研究（「キャリア発展ゼミナール」）は、身に付けた知識・論理的思考力・分析力を活用し、自らの選んだ研究の成果が実を結ぶようにきめ細やかな指導を実施する。</li> </ol> <p>&lt;教育評価&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各授業は、シラバスによってその内容と位置づけを明確にし、成績評価基準に基づき単位を付与する。</li> <li>2. 4年間の学修成果は、卒業要件の各区分単位を満たしたことににより認定する。</li> </ol>
	心理・文化学科	<p>心理・文化学科では、卒業認定・学位授与の方針（DP）に掲げる目標を達成するために、総合共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、科目を配置する。</p> <p>教育内容、教育方法、教育評価については以下のように方針を定める。</p> <p>&lt;教育内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. キャリア教育科目を含めた総合共通科目を配置し、心理学コース、国語・書道教育コース、文化文芸コースの3コースで構成し、教育者・企業人として必要な人間の心理と文化に関する専門的知識と技能を体系的に学ぶことができるように科目を配置する。</li> <li>2. 専門教育科目は、学部共通科目、コース科目およびゼミナール科目に区分し、コース科目を心理学コース、国語・書道教育コース、文化文芸コースの3コースで構成し、基礎的内容から応用・発展的内容まで体系的に学べるよう科目を配置する。</li> <li>3. 専門的な知識と技能をより深く理解できるように演習・実技・実験・実習の科目を適切に配置する。</li> </ol> <p>&lt;教育方法&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主体的・能動的な学修態度を育むために、学生参加型学習、グループワークなど双方向型の教育方法を実施する。</li> <li>2. 講義・演習・実験・実習等の授業形態に応じて、アクティブ・ラーニングを取り入れ、協働性を身に付けるとともに、課題解決能力を育成する。</li> <li>3. 卒業研究（「キャリア発展ゼミナール」）は、身に付けた知識・論理的思考力・分析力を活用し、自らの選んだ研究の成果が実を結ぶようにきめ細やかな指導を実施する。</li> </ol> <p>&lt;教育評価&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各授業は、シラバスによってその内容と位置づけを明確にし、成績評価基準に基づき単位を付与する。</li> <li>2. 4年間の学修成果は、卒業要件の各区分単位を満たしたことににより認定する。</li> </ol>

# 卒業認定・学位授与の方針（DP）

## 卒業認定・学位授与の方針（DP）（ディプロマ・ポリシー）

本学は、学是「自律実行」の精神に基づき、自ら課題を発見し、解決に向けて立案した方策を実行して社会に貢献できる、豊かな人間性と高い倫理性を備えた女性を育成することを目指す。

その実現のために、卒業認定・学位授与の方針（DP）を3つの領域（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性・倫理性）から構成し、各学科の課程を修め、規定する期間以上在学し、卒業要件を満たした学生に対して、卒業を認定し、学位（学士）を授与する。

<知識・技能>

社会人に相応しい教養および専攻する学問分野における基本的な知識を体系的・構造的に理解するとともに、学んだ知識や自己のあり方等について、文化、社会、自然等と関連づけて身に付けている。

<思考力・判断力・表現力>

多様なコミュニケーション・スキルを用いて円滑にコミュニケーションができ、地域や社会における課題に取り組むための課題発見・解決能力、論理的思考力を身に付けている。

<主体性・協働性・倫理性>

高い倫理性をもって自らを律し、自己の良心や社会のルールに従って行動できるとともに、多様な人々と積極的かつ効果的に協調・協働して行動できる。さらに、地域や社会の一員としての意識を持ち、その改善や発展に向けて貢献しようとする協働力を身に付けている。

家政学部	生活デザイン学科	生活デザイン学科では、教育者・企業人に求められる知識・技能・態度等をもとに自ら課題を発見し、解決に向けた方策を立案し実行できることを目指す。 この基本理念のもとに、以下の基準を満たした学生に卒業を認定し、学位（家政学）を授与する。 <知識・技能> 教育者・企業人として相応しい教養を備え、専門領域の知識・技能を身に付けている。 <思考力・判断力・表現力> 1. 教育者・企業人としてのコミュニケーション・スキルを身に付けている。 2. 人間生活とその環境に関する課題に取り組むための課題発見・解決能力、論理的思考力を身に付けている。 <主体性・協働性・倫理性> 教育者・企業人として、高い倫理性をもって自己の良心や社会のルールに従い、多様な人々と協力して、地域や社会の発展のために主体的に貢献できる力を身に付けている。
	栄養学科管理栄養士課程	栄養学科では、管理栄養士に求められる知識・技能・態度等をもとに自ら課題を発見し、解決に向けた方策を立案し実行できることを目指す。 この基本理念のもとに、以下の基準を満たした学生に卒業を認定し、学位（家政学）を授与する。 <知識・技能> 管理栄養士として相応しい教養を備え、専門領域の知識・技能を身に付けている。 <思考力・判断力・表現力> 1. 管理栄養士としてのコミュニケーション・スキルを身に付けている。 2. 食と栄養に関する課題に取り組むための課題発見・解決能力、論理的思考力を身に付けている。 <主体性・協働性・倫理性> 管理栄養士として、高い倫理性をもって自己の良心や社会のルールに従い、多様な人々と協力して、地域や社会の発展のために主体的に貢献できる力を身に付けている。
人間科学部	児童・幼児教育学科	児童・幼児教育学科では、教育者・保育者に求められる知識・技能・態度等をもとに、自ら課題を発見し、解決に向けた方策を立案し実行できることを目指す。 この基本理念のもとに、以下の基準を満たした学生に卒業を認定し、学位（教育学）を授与する。 <知識・技能> 教育者・保育者として相応しい教養を備え、専門領域の知識・技能を身に付けている。 <思考力・判断力・表現力> 1. 教育者・保育者としてのコミュニケーション・スキルを身に付けている。 2. 教育・保育に関する課題に取り組むための課題発見・解決能力、論理的思考力を身に付けている。 <主体性・協働性・倫理性> 教育者・保育者として、高い倫理性をもって自己の良心や社会のルールに従い、多様な人々と協力して、地域や社会の発展のために主体的に貢献できる力を身に付けている。
	心理・文化学科	心理・文化学科では、教育者・企業人に求められる知識・技能・態度等をもとに、自ら課題を発見し、解決に向けた方策を立案し実行できることを目指す。 この基本理念のもとに、以下の基準を満たした学生に卒業を認定し、学位（文学）を授与する。 <知識・技能> 教育者・企業人として相応しい教養を備え、専門領域の知識・技能を身に付けている。 <思考力・判断力・表現力> 1. 教育者・企業人としてのコミュニケーション・スキルを身に付けている。 2. 人間の心理と文化に関する課題に取り組むための課題発見・解決能力、論理的思考力を身に付けている。 <主体性・協働性・倫理性> 教育者・企業人として、高い倫理性をもって自己の良心や社会のルールに従い、多様な人々と協力して、地域や社会の発展のために主体的に貢献できる力を身に付けている。